

要介護高齢者の筋機能特性

○高瀬幸一、田口正公、柿本真弓（福岡大学）

本研究は、補助具等の使用で自立歩行が可能な要介護認定女性高齢者および健常な女性高齢者を対象に、膝関節伸展動作における短縮性（CON）および伸張性筋活動（ECC）時の筋出力（peak torque, 脚伸展パワー）、各種筋反応時間（electromechanical delay : EMD, pre-motor reaction time, total reaction time など）を測定し、健常な前期高齢者と後期高齢者との比較から要介護高齢者の筋機能動態の特性を明らかにすることを目的とした。その結果、要介護高齢者の筋機能はピークトルク値までに要する時間以外、すべてのパラメータにおいて前期高齢者並びに後期高齢者に対し有意に劣ることが明らかになった。特に筋のEMGシグナルが発現してから筋トルクが発生するまでに要する遅延時間であるEMDは、前期高齢者（ 86.5 ± 7.6 ms : ECC筋活動）を基準にした場合、要介護高齢者の値は61%（ 141.6 ± 26.1 ms : ECC筋活動）長い値であった。